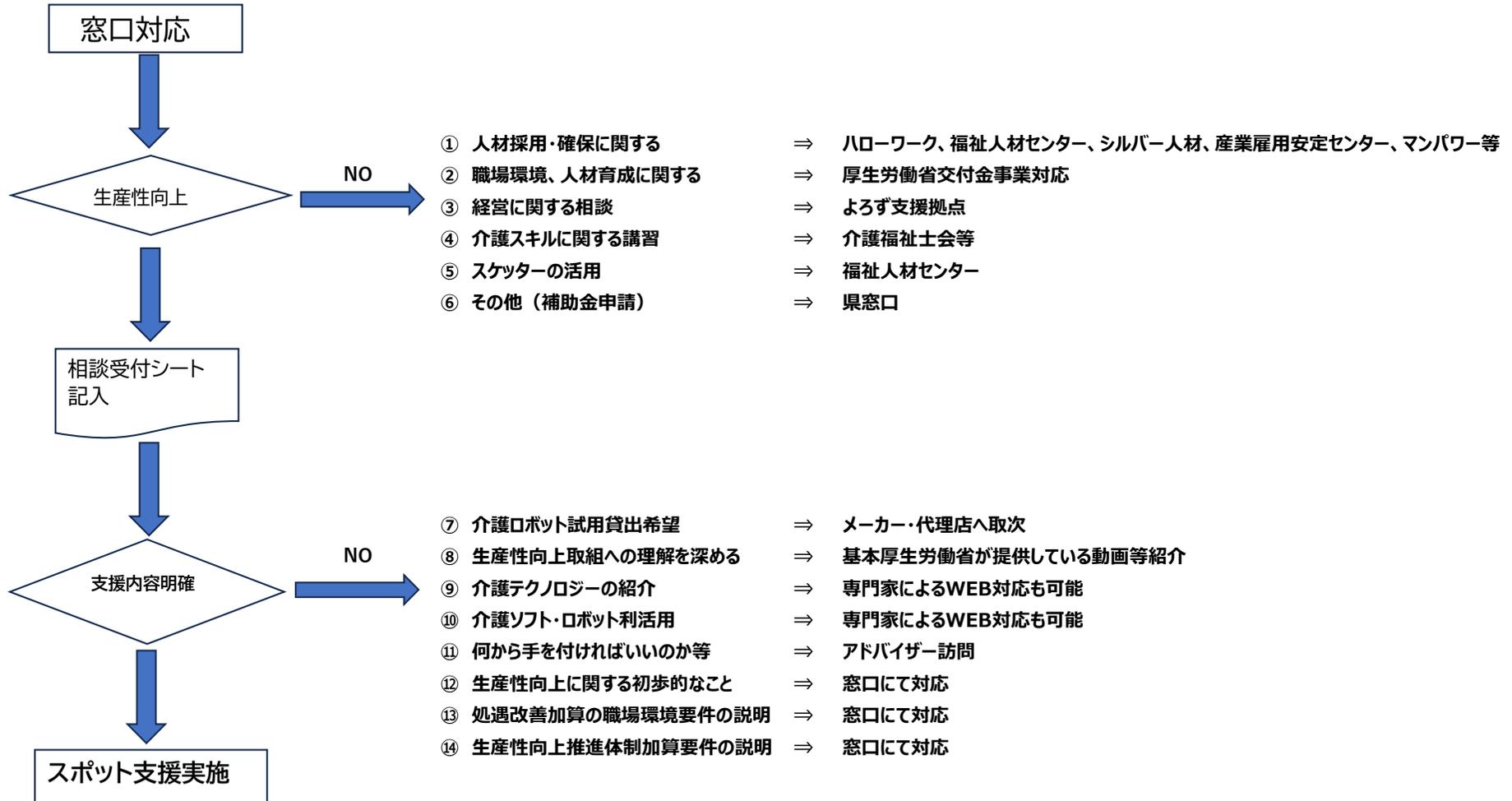
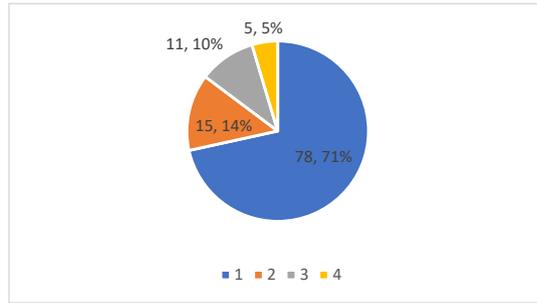


生産性向上ワンストップ窓口対応フロー

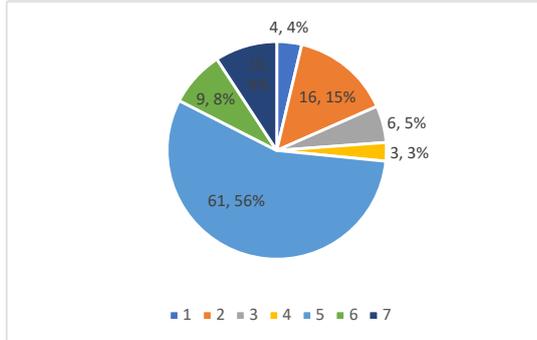
資料1



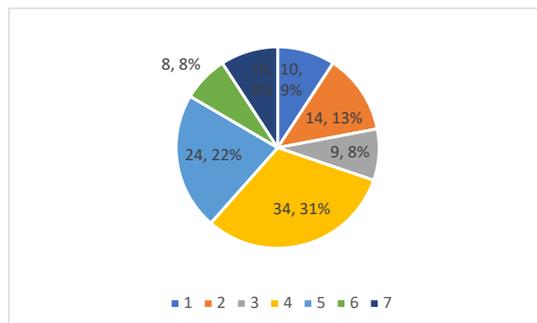
相談方法	
①電話/FAX	81
②メール	15
③訪問	15
④来訪	5
合計	116



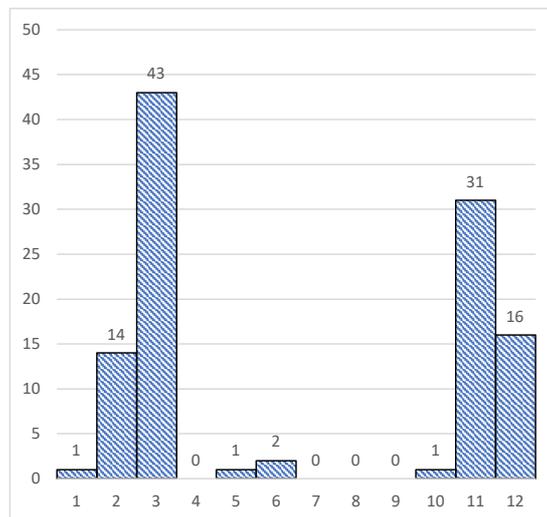
サービス分類	
①訪問系	4
②通所系	16
③短期入所系	6
④居住系	4
⑤施設系	67
⑥多機能系	9
⑦その他	10
合計	116



事業所規模	
① 1～10人	11
② 11～20人	16
③ 21～30人	11
④ 31～50人	35
⑤ 51～100人	24
⑥ 101人以上	9
⑦ その他	10
合計	116



業務改善項目（相談内容）	
①職場環境の整備（5S活動）	1
②業務の明確化と役割分担（1）業務の再構築	15
③業務の明確化と役割分担（2）テクノロジーの活用	47
④業務の標準化と手順書の作成	1
⑤記録・報告様式の工夫、改善	1
⑥情報共有の工夫、改善	2
⑦OJTの仕組みづくり	0
⑧理念・行動指針の徹底	0
⑨人材育成・研修教育プログラムの構築	0
⑩健康管理・予防対策の構築	1
⑪その他(伴走、スポット支援申込)	31
⑫その他	17
合計	116



相談内容の具体例

- ① 生産性向上の意義を理解したい。職員への説明ができない。
- ② 生産性向上に関する取組や進め方について支援してほしい。
- ③ インカム、眠りスキャンの導入を図りたい。
- ④ 介護ソフトを導入するにあたり、他のシステムとの連携を図りたい。
- ⑤ 情報共有が進まない。手書きでの運用が続いている。
- ⑥ 腰痛予防対策として移動、移乗の機器の導入を検討したい。
- ⑦ 管内の介護事業所を対象とした学習会を企画してほしい。

相談内容の具体例

	内容		窓口対応方法	支援（専門家の派遣）
①	生産性向上の意義を理解したい。職員への説明ができない。	→	基本は厚生労働省が提示するガイドラインやホームページ・動画を紹介する。	委員会メンバーやコアメンバーに対して勉強会を開催する。
②	生産性向上に関する取組や進め方について支援してほしい。			
③	インカム、眠りスキャンの導入を図りたい。	→	導入にあたり解決したい課題が明確になっているのか。 導入効果や導入後の業務手順の変更などについて検討しているのか。 試用貸出などでメリットやデメリットを理解しているのか。	そもそも業務改善としてどのような取組をしてきたのかを確認のうえ、アドバイザーを派遣して見込まれる導入効果や機器の連携・環境等のアドバイスの支援をする。
④	介護ソフトを導入するにあたり、他のシステムとの連携を図りたい。	→	介護ソフトを導入する目的や既存のシステム状況を把握する。	システム構成に詳しい専門家を派遣する。
⑤	情報共有が進まない。手書きでの運用が続いている。	→	課題の抽出や解決策の提示に関して職員間の認識ができていないのか。 手書き運用となっている原因は何か。十分な検討がされたのかなど確認する。	課題の整理や手書き運用となっている原因を分析し、システム運用に詳しい専門家を派遣する。
⑥	腰痛予防対策として移動、移乗の機器の導入を検討したい。	→	移動移乗に関するマニュアルの整備やスキルの標準化など検討されているのか。 試用貸出などで機器の特性等は理解しているのか。	①腰痛予防対策として必要なスキル等が不十分であれば、健康管理に関する専門家を派遣する。 ②機器導入が最優先であれば、ノーリフトケアを実践している施設などを紹介する。 ③機器の選択に悩むようであれば詳しい専門家を派遣する。
⑦	管内の介護事業所を対象とした学習会を企画してほしい。	→	介護事業所連絡会議等に職員が赴き、介護現場生産性向上推進総合事業について説明する。	

研修会・機器展示について

資料3-1

(1) 令和6年度実施状況

① 7月16日（飯田会場）、7月17日（佐久会場）

『生産性向上とは何か』（2日間で76名参加）

・令和6年度の介護報酬改定を通じて、今後介護分野に求められている生産性向上について説明をおこない、すぐに始められる業務改善のための生産性向上の取組みについて研修実施。会場参加者のみ研修後グループワークをおこない、自法人の生産性向上の取組みについて話し合いを行った。

② 8月29日（松本会場）、8月30日（長野会場） 介護ロボット・ICT機器展示会同時開催

『介護分野でのテクノロジーの活用方法を学ぶ』（2日間で155人参加）

・介護テクノロジーの活用が進んでいる東京都の社会福祉法人善光会の取組み内容を取り上げ介護ロボット・ICTの機器活用の必要性、活用現場の姿、導入のプロセスについて経営者、管理者向けに研修。県内事業所の取組み事例紹介とパネルディスカッションを行った。

パネラー：介護事業所 社会福祉法人梓の郷、社会福祉法人グリーンアルム福祉会

障害福祉事業所 社会福祉法人親愛の里、北アルプスの風、社会福祉法人からし種の会

【8月29日、30日出展メーカー、出展機種一覧】

分類	メーカー名・商品名
見守り	パラマウントベッド株式会社「眠りSCAN」
	コニカミノルタQOLソリューション株式会社「HitomeQケアサポート」
	株式会社バイオシルバー「aams」
	フランスベッド株式会社「見守りケアシステムM-2」
インカム	酒井医療株式会社 インカム「クリアトークカム」
移乗支援	アビリティーズ・ケアネット株式会社「床走行リフトマキシツイン、オミスタ3」
	シーマン株式会社「テイクオフ」
排泄支援	DFree株式会社「排泄予測デバイスDFree」
	エンゼル&アイ株式会社「NECサニタリー利用記録システム」
移乗支援（装着型）	株式会社ジェイテクト「J-PAS fleairy」
介護ソフト	NDソフトウェア株式会社「ほのぼのNEXT、ほのぼのmore」
	株式会社ワイズマン「ワイズマンシステム」
コミュニケーション	株式会社レイトロン「Chapit」

展示会入場者数 219人

(2) 令和7年度実施計画（案）

① スタートアップセミナー 県内2カ所

「キックオフ」「メンバー構成」「課題の見える化と整理」「解決策の策定」を中心に講義
令和6年度伴走支援事業所事例紹介（2事業所）

② 機器展示（長野、松本会場）

参加メーカー10社以上（斬新なテクノロジーを紹介する）

問1. 本日の研修内容はいかがでしたか。

満足度	ビジネスセミナー	テクノロジー活用セミナー	計	構成比%
大変満足	20	31	51	30%
やや満足	20	71	91	53%
どちらともいえない	10	14	24	14%
やや不満	1	3	4	2%
大変不満	1	0	1	1%
171				

問2. 本日の講師はいかがでしたか。

	ビジネスセミナー	テクノロジー活用セミナー	計	構成比%
大変満足	20	32	52	31%
やや満足	22	70	92	54%
どちらともいえない	7	15	22	13%
やや不満	1	2	3	2%
大変不満	1	0	1	1%
170				

問3. 研修会の開催日時はいかがでしたか。

	ビジネスセミナー	テクノロジー活用セミナー	計	構成比%
適切であった	49	116	165	98%
適切でなかった	1	3	4	2%
169				

問5. 「長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター」の事業についてご案内させていただきましたが、今後利用する予定がありますか。

	ビジネスセミナー	テクノロジー活用セミナー	計	構成比%
ある	14	27	41	25%
ない	9	14	23	14%
検討する	27	71	98	60%
162				

利用したいサービスは（複数回答）

	ビジネスセミナー	テクノロジー活用セミナー	計	構成比%
スポット型支援	8	17	25	11%
伴走支援	11	14	25	11%
試用貸出	15	40	55	25%
窓口での相談や情報共有	14	20	34	15%
研修会参加	24	59	83	37%
222				

問6. 現在ご自身の事業所では生産性向上に関する取組をおこなっていますか。

	ビジネスセミナー	テクノロジー活用セミナー	計	構成比%
行っている	27	59	86	54%
行っていない	18	55	73	46%
159				

（取組済み）取組んでいらっしゃる内容はどのような事ですか。

複数回答	ビジネスセミナー	テクノロジー活用セミナー	計	構成比%
1.職場環境の整備	26	36	62	23%
2.業務の明確化と役割分担(1)業務全体の流れの再構築	12	23	35	13%
3.業務の明確化と役割分担(2)テクノロジーの活用	17	32	49	18%
4.手順書の作成	8	18	26	10%
5.記録・報告様式の工夫	11	33	44	17%
6.情報共有の工夫	5	25	30	11%
7.OJTの仕組みづくり	5	5	10	4%
8.理念・行動指針の徹底	6	4	10	4%
266				

（取組を行っていない事業所）第一に取組みたい事項は何ですか。

複数回答	ビジネスセミナー	テクノロジー活用セミナー	計	構成比%
1.職場環境の整備	6	19	25	25%
2.業務の明確化と役割分担(1)業務全体の流れの再構築	4	17	21	21%
3.業務の明確化と役割分担(2)テクノロジーの活用	6	18	24	24%
4.手順書の作成	2	1	3	3%
5.記録・報告様式の工夫	4	11	15	15%
6.情報共有の工夫	4	2	6	6%
7.OJTの仕組みづくり	1	3	4	4%
8.理念・行動指針の徹底	1	3	4	4%
102				

生産性向上の取組を行うなかで問題、課題となることは何か。

- 職員の理解が不足している（職員の協力が得られない）スタッフへの周知が進まない
- 高齢職員の新しいモノ、コトへの拒否感が強い、現状を変えたくない
- 情報機器、介護ロボットが使えない職員、高齢者職員に対する教育・研修等のサポートが必要
- 人員不足、業務が忙しくて手が回らない、これ以上負担をかけられない
- 業務の整理、標準化ができていない、残業時間を減らし余裕が欲しい
- 何から手を付けばいいのか分からない、目的が明確にできない
- 理念や行動指針が整備されていない、職員の意識統一ができない
- 課題に対しての整理、分類、分析、アプローチや解決策が難しい
- ITテクノロジーへの知識が不足している
- 不要な機器の整備導入がある、導入ありきで話が進んでいる
- 介護テクノロジーを導入したが使いこなせない
- 導入した機器との連携ができなく、無駄な作業が生じている
- デジタル技術を効果的に使いこなせる人材が不足している
- コストがかかる、費用対効果に不安を感じる
- 予算不足と補助金の有効的な利用方法がわからない
- 小規模事業所はどのように介護テクノロジーを導入したら良いのか。

ICT・介護ロボット試用貸出アンケートまとめ

資料4

貸出実施数 15件 (R7・2月末時点)

■ 機器の種類

移動・移乗ロボ	4	センサーマット	5	排泄	0
パワースーツ	4	コミュニケーション	2		

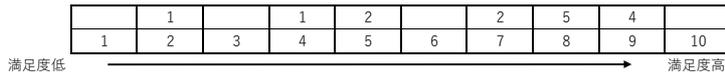
■ 試用した機器の効果 (複数回答可)

利用者に対するサービスの質が向上した (向上が見込める)	3
利用者の自立につながった	
利用者の安全性向上につながった	5
業務やサービスが効率化した	5
介護職員の負担軽減につながった	9
その他	1
・職員を癒していただきました。	

■ 効率の良かった利用パターン

移動・移乗	<ul style="list-style-type: none"> 現在の機器では職員・ご利用者とも不安がある中での介助だったが、貸出の機器を使用することでリスク・不安もかなり軽減できると思う。 利用者様のベットから車いすへの移乗、車いすからベットへの移乗。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様のレクリエーションとして活用した。 職員の笑顔が多くみられた。
センサーマット	<ul style="list-style-type: none"> 特に夜間帯、利用者の入眠・覚醒状態が訪室せずに画面で確認でき、職員の負担軽減や安心感につながると感じた。 日常的にベットで端座位で過ごす利用者に対し、訪室回数が減った。貸し出しではなかったが、カメラで室内の様子が可視化されれば、職員の安心感につながると思う。 スタッフの負担軽減と入所者様の質の良い睡眠につながる。 看取り期の利用者において、夜間スタッフの不安軽減。

■ 試用した機器への満足度



■ 導入意向

ぜひ導入したい	4
今後、導入を検討してみてもよい	6
他の機器を試してみたい	3
導入は難しい	2

■ 導入意向の理由

移動・移乗	<ul style="list-style-type: none"> より安全に、リスク軽減も大きく、保管しておくスペースも困らないため、スムーズな導入ができると思う。 全介助対象2名の利用者様に対して使用させてもらい、通常は2名で介助を行っているが、導入後には1名での介助が行えること。 介助を行う上で、職員の身体の負担が減少できる。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 利用者さんが興味を向けレクリエーションを行うことができたが、一部の利用者様が、ロボットをつかんだり、歩行の安定しない利用者様が立ち上がり転倒の危険性が見られた。常に職員の見守りがないと破損、利用者様の転倒の危険性がある。 利用者様の反応が乏しく、また、ロボットが動くことから利用者様の転倒リスクがあり、安全面を考慮すると導入は難しい。また、ロボットが愛くるしいことから、職員が一緒に居たくなり、業務に支障が出てしまう可能性が考えられる。
センサーマット	<ul style="list-style-type: none"> 現在使用している離床センサー (床設置式) では、コールで間に合わずに転倒してしまうケースがあり、カメラ付きの見守りシステムは必須と考えている。 無駄な訪室を減らすことで、職員の負担軽減や利用者の安眠確保につなげたい。 個別に入眠状況を確認することで、排泄パターンや薬効を把握し、業務の効率化を図りたい。 スマホを通して手元で入所者様の状況が分かり、安心感がある。 全職員に好評だった。脈なども分かり便利だった。 夜間の巡回回数が減り、他の仕事できた。モニターですぐに確認でき分かりやすい。
パワースーツ	<ul style="list-style-type: none"> 常時着用でも、負担や業務支障がなく職員から好評だった。ただ、腕サポートにより手先を使用する業務には支障が見られた。 腰部負担への軽減は実感できたが、装着しての業務遂行には重さや大きさがネックとなり、着用場面を限定しなければならなかった。 着用場面は限定的だが、効果は大きく感じられ、職員からも好評だった。

■ その他

<ul style="list-style-type: none"> ベルトの固定等、時間のかかる作業とならないため、使いやすい。 装着に時間がかかってしまったが、慣れればスムーズにできると思う。 ロボットが人間にとって愛くるしい存在になると感じたのは新たな発見だった。 試用台数が多く、画面でも一覧としてイメージしやすかったが、試用期間が短く全職員の試用体験には至らなかった。コード類は多いと感じた。 離床後すぐの体動は検知しないなど、機器の性能や条件に気を使い方。 誤作動や停電時が心配。利用者ごとの個別設定が大変そう。 心拍がリアルタイムで、看取り期の利用者にも有効性を感じた。 機能性には満足できるが、重量がもう少し軽くなるが良い。
--

伴走支援先 一覧 介護事業所

サービス種別	事業所名	抽出した課題・テーマ	取組み状況・最終成果	今後の課題
1	デイサービス 西山の里	①私語が発生するタイミングがあるため、職員間のモチベーションの差が発生している。 ②共有すべき情報があいまいなため、情報の鮮度に差が生じている。	①体操の時間に私語が見受けられるため、PTが主体となって介護職員にも参加の呼びかけを行った。声掛けにより利用者のそばで体操の支援に入る職員が増え、利用者の体操への取組方が積極的になり、職員の参加意識も向上し私語が減った。 ②要確認のファイルを1つの箱に入れ、全員が確認するよう統一したことにより、ケアマネとの欠席確認やファイル探しの時間短縮、情報共有がスムーズになりホールに早く出られるようになった。	社協のためサービス種類が多く、事業所も多いので課題の抽出に時間がかかった。事業所単位で取組んだ結果を持ち寄り、社協全体として生産性向上への意識を高める。
2	老人福祉施設 特養 やすおか荘	①業務の標準化を図る。業務仕分けを見直す。 ③移乗支援機器の活用を進める。 ②介護ソフトの有効的な利用を進める。	①業務仕分けを行い業務の平均化が進んだ。さらにタイムスタディーの導入を図り、属人化している業務やスキルの個人差を解消する方向で進めている。 ②使用されていない移乗支援機器の再利用を進めるために、手順書を整備する。 ③WIFI整備を進め、タブレット入力を可能にするとともに、運用を定着させる。	○施設全体に業務改善の意義が理解されつつあると感じた。生産性向上推進体制加算Ⅰの取得に向け事業強化を図りたい。
3	介護老人保健施設孝穂館	①補助金活用による機器導入と生産性向上推進体制加算Ⅰの取得 ②介護ソフトの有効利用 ③夜勤勤務職員と早番勤務職員の業務負担の軽減	①導入前に課題と導入効果の聞き取り ②紙ベースでの記録をタブレットとPC入力に変更 ③利用者の入浴スケジュールを見直し従前おこなっていた食後の移乗介助業務を軽減。	①導入前に試用し求める機能や使い勝手にあっているか検討 ②記録の書き方の統一化 ③1週間を通してバランスよく業務負担の軽減を行えるよう再検討。
4	介護老人福祉施設 特養 真寿園	①業務改善活動を通して、組織の体質を変えていく。 ②介護記録の共有化。申し送りを電子媒体へ。 ③移乗介助技術の標準化を図る。	①課題の抽出や解決策の提案等職員の積極的な参加があった。 ②介護記録情報から申し送りシートへの転記が系統的に運用できるように改善された。 ③移乗介助スキルのキャリアアップ表や評価表を整備する方向で検討している。	○組織として事業計画の中に業務改善が位置付けられており、職員がその意義を理解していると感じた。
5	特定施設入居者生活介護 介護付き有料老人ホームケアホームわだ	①業務整理や標準化を進める。 ②職員間のコミュニケーションを増やす。 ③夜勤の業務負担を軽減する為に、眠りスキヤンの導入を検討する。	①施設内のルールや業務手順、介護記録の記入内容等について標準化を図る。 ②職員間の情報共有や業務改善提案を進める。 ③現在、眠りスキヤンの試用貸出を体験し、どのような利活用ができるか検討しながら導入を進めている。 ④タイムスタディーの導入、分析を行う	○トップダウン形式で介護ロボットの導入が進むと感じたが、アドバイザーの支援により他施設の事例紹介等や試用貸出によりテクノロジーの有効活用について職員の理解が深まっていく様子が見て取れた。
6	介護老人福祉施設（複合施設） 豊野事業所	①生産性向上に関する取組を通じて企業の体質や職員の考え方が変わってほしい。最終的に介護の質を極めていきたい。 ②三か所の施設が課題を整理し解決策を実行することにした。	各施設の取組み ○業務マニュアルの見直しを実行し、職員の業務負担を軽減し超過勤務時間を短縮する。 ○排泄手順書の見直し、スキルの達成度を評価していく。介護ケアが重複しないように情報の伝達、共有化を図る。 ○申し送りの記入内容を標準化し、申し送りに要する時間を短縮する。	○トップからの施設全体への情報発信やプロジェクトチームリーダーに対する配慮、フォローができています。

来年度の伴走支援について

資料5-2

○伴走支援数を増やす、伴走支援対象者向けに集団研修を実施

○個別支援対応から集団支援対応へ

(参加事業所が集団で取組方法を体系的に学ぶことにより、スキルの標準化を図り他事業所との連携や情報共有をすることにより均一化を図ることが可能となる。)

① 参加事業所募集 (15事業所程度)

(参加事業所は必ずスタートアップセミナーに参加すること)

(参加事業所は「キックオフ宣言」「生産性向上委員会の設置」「課題の洗い出し」を実施すること)

② 6月 第1回伴走支援フォローアップセミナー実施

(参加事業所の経営層とプロジェクトチームリーダーが必ずペアで参加すること)

テーマ 主体性を引き出す業務改善活動の支援方法を学ぶ

－ファシリテーションスキルを身に付ける－

ア、課題の決定と実行計画の策定方法

イ、KPIの設定方法

ウ、業務改善を推し進めるマネジメント力の必要性

エ、経営者に期待されるリーダーシップとは

オ、グループワーク

6月～12月業務改善実施期間

○ 専門家による進捗状況に応じた伴走支援を実施

③ 12月 第2回伴走支援フォローアップセミナー実施

カ、改善活動を振り返る

キ、実行計画を練り直す

ク、生産性向上推進体制加算の取得方法

ケ、タイムスタディーの集計と分析方法

コ、課題別グループワーク

サ、事例報告集の作成方法について

○ 専門家による進捗状況に応じた伴走支援を実施

④ 3月 事例報告集のとりまとめ

付) 参加事業所は2回のフォローアップセミナーを全て履修することが条件

付) 前年度伴走支援事業所の参加を認める